

伝統的な有名林業地に関する次の記述 A～D のうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 吉野林業（奈良県）は、高密度で植栽し、年輪が詰まった高級スギ材を生産しており、酒樽用にも利用されている。
- B. 尾鷲林業（三重県）は、植え付け本数が多く、無節で高品質なヒノキの銘柄材を生産している。
- C. 能登のアテ林業（石川県）は、ヒノキ材を生産しており、伝統産業である輪島の漆器の木地にも利用されている。
- D. 飢肥林業（宮崎県）は、かつては造船用の弁甲材を生産していた。油分が多く、腐りにくいスギを実生で造林し、植栽本数が少なく、早く成長させていた。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. A, D
- 4. B, C
- 5. C, D

森林の分類に関する次の記述 A～D の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

- A. 林冠を構成する主な樹木によって、針葉樹林と広葉樹林の二つに分けられる。
- B. 森林の幾何学的構造によって、単層林、複層林、極相林の三つに分けられる。
- C. 発達段階によって、幼齡林、若齡林、成熟林の三つに分けられる。
- D. 古くに人間活動の介入があっても、それから十分に時間が経過して、自然な樹種構成や再生過程が確立された森林は天然林に含む。

	A	B	C	D
1.	誤	誤	誤	正
2.	誤	正	正	誤
3.	誤	正	誤	正
4.	正	誤	誤	正
5.	正	誤	正	誤

針葉樹材の組織に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 針葉樹材には、アカマツなどの一部の樹種で放射組織が認められ、その全てが柔細胞からなる。
2. 樹体を支える機能は仮道管が担い、水分の通り道は一般に道管が担う。
3. 針葉樹材の放射組織は、接線方向に細胞が多列に並ぶ広放射組織が一般的である。
4. カラマツなどには樹脂道が認められるが、樹脂道は肉眼で確認できる大型の細胞である。
5. 針葉樹材を構成する細胞のうち、一般に90%以上を仮道管が占めている。